

## 第9回円空大賞事業開催要項

### 1 開催趣旨

円空は、江戸時代（1632～1695年）に美濃国（岐阜県）に生まれ、全国を行脚しながら、生涯に12万体の神仏像を彫ったと言われる修行僧です。円空は人々の心を癒し続け、その作品の単純稚拙の美や、そこから感じられる人間らしさ、慈愛の精神は、今も私たちに深い感動とやすらぎを与えています。



岐阜県では、この類のない「円空仏の独創性」や「円空の慈愛の精神」を、改めて注目すべき本県の個性と捉え、平成11年度に円空大賞を制定しました。本事業では、円空を連想させる顕著な業績をおさめている現代作家を選考し顕彰するとともに、県内の円空仏と併せて作品を展示する「円空大賞展」を開催します。

これまでに、8回の円空大賞展を開催し、優れた現代美術展として高い評価をいただいています。

第9回円空大賞事業では、岐阜県美術館での展覧会をはじめ、本県の芸術文化・地域文化の振興につながる各種イベント等を開催することによって、県民に優れた芸術文化にふれる機会を提供するとともに、円空のよさを広く発信することによって、郷土への誇りや愛着を醸成します。

### 2 賞について

円空大賞 1名（賞金300万円、トロフィー、賞状）

円空賞 4名（賞金100万円、トロフィー、賞状）

### 3 受賞者対象要件

「円空」を連想させる顕著な業績をおさめている現代作家（立体造形・絵画・映像等）を対象とし、国籍や年齢は問わない。また、活動や成果物の発表年、制作年を問わない。原則として受賞者1名は、岐阜県出身者あるいは岐阜県在住作家を対象とする。また、1名は海外作家を対象とする。

### 4 選考の視点

#### （1）風土性と国際性

（世界各地域の風土や土着性に根ざし、国際的にアピールできるもの）

#### （2）自然とのかかわり（自然との交流を創作の契機としたもの）

#### （3）伝統性と現代性（伝統文化や芸能性、現代性を兼ね備えたもの）

- (4) 在野性と民衆性（地域の民衆と交流し、慰めを与えるヒューマンな性格）
  - (5) 身体性（知的、頭脳的であるよりむしろ身体性に根ざした素朴で率直な表現）
  - (6) 素材や伝達媒体  
（木や金属などの素材、映像など多様なメディアを生かした造型表現）
  - (7) 上記（1）～（6）のような視点を持つ研究、評論
- なお、受賞者の選考にあたっては、隠れた芸術家を積極的に取りあげることとする。

## 5 受賞者の選考方法

円空大賞選考委員等による受賞候補者の推薦を基に、選考委員会において意見聴取及び意見交換を行い、岐阜県知事が決定をする。

## 6 第9回円空大賞選考委員会

委員長	梅原 猛	（国際日本文化研究センター顧問）
副委員長	辻 惟雄	（東京大学名誉教授、多摩美術大学名誉教授）
委員	木幡和枝	（アートプロデューサー、東京藝術大学名誉教授）
	今野由梨	（円空研究家、ダイヤル・サービス（株）代表取締役社長）
	新宮 晋	（造形作家）
	高橋 秀治	（岐阜県現代陶芸美術館長）
	長谷川 公茂	（円空学会顧問）
	パトリア・フィスター	（国際日本文化研究センター教授）
	日比野 克彦	（岐阜県美術館長、アーティスト、東京藝術大学美術学部 先端芸術表現科教授、東京芸術大学美術学部長）
	山本 容子	（銅版画家）
	ヤン・ファン・アルフェン	（キュレーター アジア美術専門家）

## 7 第9回円空大賞展までのスケジュール

平成28年度 円空大賞受賞者の選考・決定

平成30年2月2日（金）円空大賞授賞式【岐阜県美術館】

平成30年2月2日（金）～3月11日（日）第9回円空大賞展【岐阜県美術館】

展覧会期間中にワークショップ、トークショーなど各種イベント開催